


【会議参加報告】


会議参加報告◆ **HCI International 2001****木島竜吾**

岐阜大学

2001年8月5日-10日、アメリカのニューオーリンズで行われた国際会議 HCI International 2001 (Symposium on Human Interface (Japan) 2001, 4th International Conference on Engineering Psychology and Cognitive Ergonomics, 1st International Conference on Universal Access in Human-Computer Interaction) に参加した。HCI は、Human Computer Interaction、つまり人間と計算機の関わり方に関する国際会議であり、今回で9回目である。上に示したように、今回はいくつかの会議とのジョイントカンファレンスとなっている。開催地となったニューオーリンズは、アメリカ東南部の町であり、フレンチクォーターやジャズが有名である。

会議は、チュートリアルと、14もの平行テクニカルセッション、ポスターセッションおよび展示からなり、その範囲も、E-business, Web Design, Usability testing and evaluation, Collaboration, Cognitive work design, Guidelines and standards, Cross-cultural user interfaces, Speech recognition, E-learning, Virtual reality, Unified user interfaces, Multimedia, Design of mobile, web-based products, Design for special populations と、非常に幅広い。ポスター展示も日替わりで、160件程が行われていた。会場はフェアモントホテルの3フロアを占有した大規模なものであったが、部屋の大きさが15人から200人以上とまちまちであり、必ずしも観客動員を反映しきれない部分もみられた。

筆者は、そのなかでも2日間のテクニカルセッション、

ポスターセッション、展示に参加したに過ぎないため、その全貌を述べることはできないが、いくつかのセッションについて報告したい。

Wearable Computing のセッションでは、ジョージア工科大のグループが連続した発表を行った。特に、画像的体験の分節化や、いかに自然な人間の計算機に対するサポートを得るかといった話は興味深く印象に残った。

Speech&Voice Interface 関連のセッションにも、興味深い発表がみられた。たとえば、産総研の後藤らの発表は、言い淀みを利用した語の補完に関するものであり、PDA や携帯電話に取り入れられつつある補完という方法を音声認識に適用したようなものである。

なお、本会議に関する情報は

<http://hcii2001.engr.wisc.edu/>

で、また次回ギリシャで行われる HCI2003 に関しては

<http://hcii2003.ics.forth.gr/>

で情報を得ることができる。

◆ **Ars Electronica 2001****畠中実**

NTT インターコミュニケーション・センター

Ars Electronica 2001 今年のテーマは「TAKE-OVER」。副題には「明日の芸術を行なうのは誰か」と謳われているが、何らかの未来へのヴィジョンを打ち出す先鋭的なものというよりは、むしろここ数年のテクノロジー・アートの傾向から「明日の芸術」を先導するアーティストたちを網羅したものという印象を受けた。これまで「INFO WAR」「LIFE SCIENCE」「NEXT SEX」と比較